

高1ケアに「2人担任」

鹿児島県内の公立高校で「2人担任制」が広がりつつある。学級運営は正副担任1人ずつが一般的だが、学校生活の適応に苦勞する高校1年の対応を手厚くする狙いだ。生徒や保護者にとって相談しやすい教員を選択できる利点があるだけでなく、教員の負担軽減や資質向上にもつながっている。(山下翔吾)

鹿県内公立校導入進む

「明日のテストも頑張りましたよ。」11月末、鹿屋市の鹿屋女子高。1年2組の終礼で、担任の満留直美教諭(39)と末吉一穂教諭(30)が生徒39人に話をしていた。同校は2021年度から、1年生5クラスに担任2人、副担任1人の3人態勢を敷く。

チームで見守る

高校生活は、中学校生活に比べて通学距離が長くなったり、学習時間が増えたりするほか、友人関係も大きく変わる。中でも高校1年時は保健室の利用や遅刻、欠席、問題行動などが多くなる傾向にあり、「高1ギャップ」や「高1クライシス」とも呼ばれる。

「1年生の1学期は特に不安定な時期で、人間関係のもめ事が起きやすい。『チーム』で見守る意識が芽生えた」と満留教諭。例えば、1人が厳しく指導した後に、もう1人はフォローに回るといった臨

機応な対応が可能になる。

生徒の評判も上々だ。澤田涼花



生徒と談笑する末吉一穂教諭(左)と満留直美教諭。11月、鹿屋市の鹿屋女子高校

さんは「入学したら担任が2人いて驚いた。人間関係や進路など内容によって相談相手を変えている」。神野杏さんは「同じ中学の子がクラスにいないくて不安があった分、心強かった」と笑顔を見せる。

6割が評価

日置市の伊集院高は、本年度から1年生5クラスに「2人担任制」を導入した。濱島幸治校長(59)は「円滑な学級運営には2人の情報共有が欠かせない。息の合った姿を見せることで、生徒たちにコミニケーションの大切さを伝える狙いがある」と力を込める。

12月上旬、検証の一環で1年生176人を対象にアンケートを実施。回答があった146人の6割超は「よかった」と評価し、「どちらでもない」を含めると9割に上った。自由記述には「相談しやすい」「安心感がある」などとあった。

教員側は三者面談や教育相談、通知表作成などを分担できるようになった。「職員朝礼後に話をしたり、互いの職員室を行き来したりして毎日情報交換している」と吉富拓児教諭(49)。除川創教諭(43)も「作業面や精神面に余裕が出て、生徒ともゆとり語り話す機会が増えた」と語る。

生徒 相談相手を選択 教員 業務の負担軽減

生徒ファースト

「高校生活にスムーズにつなげるには相談態勢の充実が不可欠だと感じた」と話すのは鹿児島商業高(鹿児島市)の堀之内尚郎校長(59)。19年度、当時の赴任先である奄美高(奄美市)で1年生に「2人担任制」を取り入れた。

環境の変化に適応できない生徒への手だてを模索していた際、東京都教育委員会が03年度に始めた「エンカレッジスクール」が目にとまった。小中学校で十分に能力が発揮できなかった生徒を応援する取り組みとして、一部の高校は1クラスを担当2人が指導する態勢を取っていた。

正担任と副担任の2人態勢の場合、副担任は生徒指導や保健などの校務分掌で責任者を任せられることが多い。「学級の問題は担任が解決すべきだ」と言って当事者意識が低い人もいる」と若手教員の一人。

堀之内校長は強調する。他の学級経営をすべて教員の資質向上も期待できる。生徒ファーストの取り組みだが、学校にとってもメリットしかない。鹿商高では来春の共学化に合わせて1年生に「2人担任制」を採用する予定だ。